

日本教育社会学会第60回大会 公開シンポジウム

「学力問題」の現在

教育社会学の実践的意義とその理論的到達点

2008年 9月21日 日 9:30～12:30

上越教育大学 講301教室 入場無料

報告者 原 清治 (佛教大学) : 学力論争の整理とその新たな展開をめぐって
耳塚 寛明 (お茶の水女子大学) : 社会問題としての“学力”と教育政策
志水 宏吉 (大阪大学) : 教育実践のなかの「学力」

指定討論者 山内 乾史 (神戸大学) : 社会学の立場から
岩川 直樹 (埼玉大学) : 教育学の立場から

司会 新井 郁男 (上越教育大学名誉教授)

主催 日本教育社会学会

連絡先 日本教育社会学会第60回大会実行委員会
〒943-8512 上越市山屋敷町1番地 上越教育大学
e-mail : jses2008@juen.ac.jp
URL : <http://www.juen.ac.jp/gakkai/jses2008/>



「学力問題」の現在

教育社会学の実践的意義とその理論的到達点

シンポジウムの趣旨

近年、教育社会学の領域から、「学力」をめぐる問題に関する分析や提言が積極的に発信されています。では、全国学力テストも継続的に実施され、学力の向上を旗印に授業時数と指導内容が増加された新学習指導要領の実施を控えている現在、教育社会学による学力問題の考察は、政策や教育実践に対してどのように貢献しうるのでしょうか。その一方で、教育社会学において学力をめぐる問題を考察することは、現代の教育社会の解明という学問的課題に対し、どのようなアクチュアルな示唆を与えうるのでしょうか。本シンポジウムでは、「学力」をキーにして、教育社会学の理論的到達点とその実践的な示唆を探っていきます。

シンポジウムの報告者・指定討論者の主な著書・論文

原 清 治 : 『学力論争とはなんだったのか』ミネルヴァ書房、2005年。『学力問題・ゆとり教育』(リーディングス日本の教育と社会第1巻)日本図書センター、2006年。『教育の比較社会学』学文社、2008年。

耳 塚 寛 明 : 「教育課程行政と学力低下」(『学力の社会学』岩波書店、2004年所収)、『変わる若者と職業世界』学文社、2005年。『学力とトランジションの危機』金子書房、2007年。

志 水 宏 吉 : 『公立小学校の挑戦 「力のある学校」とはなにか』岩波書店、2003年。『学力の社会学』岩波書店、2004年。『学力を育てる』岩波書店、2005年。

山 内 乾 史 : 『学力論争とはなんだったのか』ミネルヴァ書房、2005年。『学力問題・ゆとり教育』(リーディングス日本の教育と社会第1巻)日本図書センター、2006年。『教育から職業へのトランジション』東信堂、2008年。

岩 川 直 樹 : 『「学力」を問う』草土文化、2001年。『貧困と学力』明石書店、2007年。「顔を奪うシステム 全国一斉学力テストの忌まわしき作用」(『世界』岩波書店、2007年5月号所収)